

ギー討論会, 1984, 12, 大阪.

12) 柏倉 正, Deutsch, C. J., Taylor, J., Erecińska, M., Wilson, D. F.: 遊離肝細胞の尿素合成および糖新生の細胞内 pH_i 依存性とエネルギー代謝. 第10回生体エネルギー討論会, 1984, 12, 大阪.

◆ その他

1) 竹口紀晃: 陽のあたる夢. ファルマシア (パネル) 20: 30, 1984.

2) 竹口紀晃: 生体膜のイオン輸送機能と疾患——最近の研究成果から——(座談会). メディカルトリビューン, 11月22日号, 1984.

薬学部附属薬用植物園

助 教 授 吉 崎 正 雄
助 手 鈴 木 正 一
文部技官 藤 野 廣 春

◆ 原 著

1) Kimura M., Kimura I., Takahashi K., Muroi M., Yoshizaki M., Kanaoka M., and Kitagawa I.: Blocking Effects of Blended Paeoniflorin or Its Related Compounds with Glycyrrhizin on Neuromuscular Junctions in Frog and Mouse; Japan. J. Pharmacol. 36: 275—282, 1984.

2) Kanaoka M., Yano S., Kato H., Nakaniishi K. and Yoshizaki M.: Studies on the Enzyme Immunoassay of Bio-Active Constituents Contained in Oriental Medicinal Drugs III. Enzyme Immunoassay of Paeoniflorin, a Constituent of Chinese Paeony Root; Chem. Pharm. Bull. 32: 1461—1466, 1984.

3) Arisawa M., Hamabe M., Sawai M., Hayashi T., Kiuzu H., Tomimori T., Yoshizaki M. and Morita N.: Constituents of *Liquidamber formosana* (Hamamelidaceae); Shoyakugaku Zasshi 38: 216—220, 1984.

4) 御影雅幸, 矢川久子, 吉崎正雄, 木村康一, 難波恒雄: 側柏葉の生薬学的研究 (第1報) *Thuja orientalis* L. およびその類似植物に由来する商品について. 生薬学雑誌, 38: 327—333, 1984.

◆ 学会報告

1) 木村正康, 鈴木 潤, 山田 禎, 吉崎正雄, 菊地 徹, 門田重利, 松田暁子: 辛夷 (タムシバ) 成分群の抗炎症作用. 日本薬学会第104年会, 1984,

3, 仙台.

2) 有澤宗久, 吉崎正雄, 森田直賢: *Trichosanthes* 属の研究 第1報 市販括楼仁の成分. 日本薬学会北陸支部第62回例会, 1984, 6, 富山.

3) 鈴木正一, 藤野廣春, 吉崎正雄: セリ科薬用植物の放射線感受性. 日本育種学会第66回講演会, 1984, 10, 京都.

4) 貴良礼子, 波多野 力, 奥田拓男, 吉崎正雄: フウのタンニン研究 (第1報). 日本生薬学会第31回年会, 1984, 10, 東京.

5) 吉崎正雄, 藤野廣春, 益山美邦子, 有澤宗久, 森田直賢: *Trichosanthes* 属の研究 (第2報) 茎葉の成分 (その1). 日本生薬学会第31回年会, 1984, 10, 東京.

◆ その他

1) 吉崎正雄編: 富山医科薬科大学薬学部附属薬用植物園植物目録追録, 薬用植物園, 1984. 2.

2) 金岡又雄, 矢野三郎, 加藤弘巳, 中西京子, 吉崎正雄: 和漢薬の生理活性成分の酵素免疫測定法の研究, 芍薬成分 Paeoniflorin の酵素免疫測定法について. 和漢医薬学会誌 (第17回和漢薬シンポジウム記録) 1: 42—43, 1984.

3) 木村郁子, 木村正康, 吉崎正雄: 糖尿病性ニューロ・ミオパチーに対する芍薬甘草湯類聚方のマウス *in situ* におけるブレンド効果. 和漢医薬学会誌 (第17回和漢薬シンポジウム記録) 1: 60—61, 1984.